

# スリランカ高校生招へいプログラム カタランカ Cross Asia 2016 実施報告



認定 NPO 法人 地球市民の会

## 実施内容

招聘者：高校生 6 名、引率 2 名

| No. | 写真                                                                                  | 名前                               | 年齢  | 所属                 |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|-----|--------------------|
| 1   |    | ISHANTHI JAYAWARDENA<br>(イシャンティ) | 47歳 | サンガミッタ女子校<br>教師/英語 |
| 2   |    | PRARTHANA MENDIS<br>(プラータナ)      | 27歳 | シショダヤ基金<br>連絡責任者   |
| 3   |    | THIWANKA RUVISHANI<br>(ティワンカ)    | 16歳 | 11年生<br>チームリーダー    |
| 4   |   | MILNI WIJEBANDARA<br>(ミルニ)       | 16歳 | 11年生               |
| 5   |  | KAVINDYA NILAKSHI<br>(ニラキシ)      | 16歳 | 11年生               |
| 6   |  | WAYUMI MADHURANGI<br>(ワユミ)       | 16歳 | 11年生               |
| 7   |  | MANEESHA SURANDI<br>(マニーシャ)      | 17歳 | 12年生               |
| 8   |  | JITHMI MADHUKALPANI<br>(ジスミ)     | 18歳 | 12年生               |

受入実行委員：大学生 5 名 / 社会人 4 名 / 地球市民の会 5 名

日程：2016年8月5日(金)～8月15日(月)

スケジュール：

| 日にち               | 曜日              | 内容                                                                                                             | 宿泊      |
|-------------------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|
| 8月5日              | 金曜日             | 福岡空港へ到着<br>●佐賀大学訪問<br>●オリエンテーション<br>●ウェルカムパーティー                                                                | ホームステイ  |
| 8月6日<br>・<br>8月7日 | 土曜日<br>・<br>日曜日 | ●ホストファミリーと家庭内交流                                                                                                | ホームステイ  |
| 8月8日              | 月曜日             | ●保育園ひなた村自然塾訪問、園児との交流<br>●NPO 法人夢の学校 小学生との交流<br>(日本の遊びをスリランカのみんなに教えよう！)<br>●英語でワークショップ<br>(日本とスリランカ、違いを比べてみよう！) | 古賀空手道場  |
| 8月9日              | 火曜日             | ●伊万里市川内野地区 農村地域交流①(※新聞記事有り)<br>(竹細工体験、農家体験、地域との文化交流会)                                                          | 農家ステイ   |
| 8月10日             | 水曜日             | ●伊万里市川内野地区 農村地域交流②<br>(小中一貫校との交流、流しそうめん交流)<br>●町散策&日本文化体験<br>(浴衣を着て佐賀の町を歩こう！)                                  | 古賀空手道場  |
| 8月11日             | 木曜日             | ●実行委員プログラム 「佐賀の良さを感じてもらおう！」<br>(有田陶芸体験、伊万里で湯豆腐体験、武雄宇宙科学館見学)                                                    | 古賀空手道場  |
| 8月12日             | 金曜日             | ●スリランカフェスティバル (ほほえみ館) (※新聞記事有り)<br>●さよならパーティー (古賀英語道場)                                                         | 古賀空手道場  |
| 8月13日             | 土曜日             | ●プログラム振り返り会<br>●自由行動(買い物・街散策)                                                                                  | 古賀空手道場  |
| 8月14日             | 日曜日             | ●福岡市防災センター見学                                                                                                   | 福岡市内ホテル |
| 8月15日             | 月曜日             | 福岡空港から帰国                                                                                                       |         |

## 主な活動詳細：

8月5日（金）

### ◆佐賀大学訪問（協力：佐賀大学経済学部教授2名/スリランカ留学生2名/佐賀大学生）

まずは「佐賀のことを身近に感じられるように」と、佐賀大学を訪問し、学内の見学と経済学部でスリランカ出身のディ・シルバ・サーリヤ教授との懇親会を行った。

サーリヤ教授、スリランカから留学中の学生2名の協力のもと、佐賀の魅力や日本とスリランカの繋がり、日本の経済発展について教えてもらった。佐賀へ留学した先輩たちの話を聞き、また大学のキャンパスを日本の学生に案内してもらい、「将来佐賀大学に留学したい」と意識が芽生える学生もいた。同国出身の学生・教授に会うことで、日本をより身近に感じる機会となった。



（サーリヤ教授による経済学の特別講義）



（記念撮影）

8月5日（金）～8日（月）

### ◆ホームステイ（ホームステイ受入家庭：佐賀市4家庭・小城市1家庭・唐津市1家庭）

佐賀県内の家庭6家庭に分かれて、3泊4日で受入していただいた。各家庭では、スリランカ学生が自国の料理をホストファミリーに振る舞ったり、それぞれの家庭で「日本を、佐賀を感じられる場所を」と考えて吉野ヶ里や鹿島、佐賀城に見学に行ったりと、家族の一員として迎えていただいた。最終日には、ホストファミリーと涙で別れを惜しむ姿もあり、日本とスリランカ、言葉や文化の壁を超えて家族を作ることが出来た。

#### 《感想》

ホストファミリーより：

「一緒に過ごすことで家族のように感じ、とても心温まる交流が出来た。スリランカのことをすごく身近に感じるようになった。小さな息子にも異文化体験・交流を経験させることができ、とてもよかった。」

「先生方、生徒さん方皆さんの意識の高さ、食欲さに受け入れた我々の方が刺激を受け、言葉の壁は思いを伝えることで越えられるものだと感じた。」

スリランカ高校生より：

「初めて自分の家族と離れて不安だったが、言葉が分からなくても本当の両親のように自分に接してくれて、嬉しくて不安はなくなりました。日本の家族から、日本の習慣や言葉以外のコミュニケーションを学びました。」





8月8日（月）

◆**保育園訪問**（受入協力：保育園ひなた村自然塾／園長、教員、園児約100名）

保育現場の見学、給食体験、歌や踊りの交流、園児たちとの創作活動など、交流を実施した。訪問すると、園児たちが大きな挨拶で歓迎をしてくれ、スリランカの学生たちに、歌と踊りをプレゼントしてくれた。スリランカの学生たちも、子どもたちへ踊りを披露し、共に楽しんだ。子どもたちは、物怖じすることなく言葉の壁を越えて日本語で、「どうして日本に来たの?」「スリランカの踊り、かわいいね」と話しかけてくれた。

スリランカの学生は交流を楽しみながら、日本の保育環境の充実に驚いていた。園長先生は、「国が違っても子どもは未来であり、宝物である。日本の子どもたちの幸せな保育環境と女性が働きやすい環境が、将来スリランカでも整えばと思う。スリランカの学生の姿を通じて日本の子ども姿を考えるきっかけにもなった」と話してくれた。



（一緒に創作活動を行ったクラスの園児と）



（園児が育てたきゅうりを一緒に収穫）

◆**小学生との交流**（受入協力：古賀英語道場、NPO 法人夢の学校／教師・生徒40名）

「スリランカのみんなに日本の遊びを紹介しよう!」と小学生がプログラムを企画して交流を行った。子どもたちは、身振り手振りや、事前に練習した英語で、あやとりや折り紙を教えてくれた。

「初めて外国にお友達が出来た!」「言葉が分からなかったけど、一緒に遊べたことが楽しかった」と、子どもたちも言葉の壁を超えたコミュニケーションをとることが出来た。

◆**中～高校生とのワークショップ**(受入協力：古賀英語道場／教師・生徒5名)

英語で両国の学校生活や文化の違いについて紹介し合った。学校の様子や食事の仕方など、日常生活の中で「当たり前」だと思っていたことが、「当たり前」ではないことに気付いたり、共通点に気付くことが出来る時間となった。参加した学生からは、「自分の国のことを英語で話すのは難しかったが、通じたことが嬉しかった。」「日本とスリランカで、学校の雰囲気も全然違うことを知り驚いた」との感想が出た。



(折り紙を覚えた英語と身振り手振りで教える)

(同世代の学生と英語でコミュニケーション)

8月9日（火）～10日（水）

◆伊万里市川内野地区 農村交流(受入協力：地区住民約70名)

川内野地区に受け入れをしていただき、下記の内容で交流をした。川内野地区では4年前に同事業の受け入れをしていただき、「また、スリランカの子どもたちの受け入れをしたい」との声から2度目の訪問が実現出来た。

・農業体験（川久保農園）

アスパラ農家のご協力で収穫体験をした。スリランカでは珍しい、初めてのアスパラに学生たちは驚いていた。暑いビニールハウス内の作業であったが、丁寧に収穫方法や食べ方を教えてもらい、収穫の喜びを共有できた。

・竹細工作り（老人会）

老人会の皆さんと、竹を使ってマイ箸とカップ作りを行った。刀の使い方を丁寧に教えてもらい、手伝ってもらいながら完成することが出来た。他にもグランドゴルフを教えてもらったり、スリランカの遊びも披露した。

・ピザ作り体験

地元のお母さん方に教えていただきながら、収穫した野菜を使ってピザ作り体験をした。子どもたちは地域の方と一緒に思い思いのピザを作り、食事を楽しんだ。

・文化交流会

夜、公民館で地区の皆さんと文化交流会を実施。川内野地区で伝統的に受け継がれている浮立を披露していただき、スリランカの学生も、スリランカの農家の生活を表した踊りを披露した。

日本舞踊を教えていただいたり、最後は円になり皆で炭坑節を踊ったりと、お互いの文化を通じて交流を深めた。



(アスパラ収穫体験)



(竹細工でマイ箸とカップが完成)



(ピザ作り体験)

(交流会での集合写真)



### ・お寺の清掃

地区のお寺を訪問し、一緒に掃除を行った。スリランカも同じ仏教国であり、お寺が生活の身近なものとしてあること等共通点をお互いに見つけることが出来た。

### ・小中一貫校滝野校との交流

スポーツを通して交流をしよう！と生徒たちに卓球を教えてもらった。滝野校では、小学校4年生～部活動として卓球をしており、ラケットの握り方から教えてもらった。

### ・流しそうめん体験

老人会の皆さんが作ってくれた流しそうめんを、地区の皆さんと楽しんだ。手作りのマイ箸とカップを使って初めて食べる流しそうめんは「美味しかった」と好評だった。



(お寺の清掃後、皆さんと記念撮影)



(滝野校の生徒と卓球対決)



(初めての流しそうめんでにっこり)



(最後は全員と握手してお別れをしました)

1泊2日の川内野滞在で、スリランカの学生たちは「もしもう一度日本に来ることが出来たら、川内野に絶対に帰ってきます」と最後に感想を述べた。地区の皆さんからも「2回目の交流も、とても楽しかった。次もまた、川内野に来てくれるのを楽しみにしています」と言っていた。

継続的な交流を続ける中で、地区の方も「これはスリランカの文化だね」と知っていただくことも増え、地区の楽しみや活力になっていることも伺えた。

8月11日(木)

#### ◆実行委員ディ

実行委員が中心となって、「佐賀の魅力をスリランカのみんなに伝えよう」と行程を組んだ。有田で陶芸工房の見学・絵付け体験、伊万里の湯豆腐体験、武雄の宇宙科学館の訪問をおこなった。

工房では、有田焼の歴史と共に、最先端の焼き物作りのシステムも学ぶことが出来た。また、訪問の先々で地元の方に声をかけていただき、思いがけない交流も出来た。

宇宙科学館では、体験をしながら学べる施設に、スリランカの学生たちは感動し、「将来スリランカにもこのように子どもたちが楽しみながら学べる場所を作りたい」という声もあった。



(英語で陶芸工房についてレクチャー)



(宇宙科学館でみんなで記念撮影)

8月12日(金)

#### ◆「スリランカフェスティバル」(参加者：実行委員7名、一般12名、地球市民の会2名)

スリランカと日本の文化交流として、フェスティバルを実施した。今回テーマを「食」と「祭り」とし、前半はスリランカの学生たちによるスリランカ料理教室、後半は実行委員の企画による日本の祭り体験を行った。

料理教室は、学生たち手作りのレシピをもとに、スリランカから持ってきたスパイスやココナッツを使ってカレーを作り、スリランカの食べ方に習い手を使って食べた。

「祭り」の企画では、射的やかき氷、輪投げ、ヨーヨー釣り体験を用意し、日本人とスリランカ学生でチームになって競い合った。



(みんなで作ったカレーを美味しくいただきました)



(集まった皆さんと集合写真)



## ウエルカムパーティー及びさよならパーティー

8月5日にウエルカムパーティー、8月15日にさよならパーティーを実施した。実行委員、ホストファミリー、当会会員を中心に、一般参加を含め各回40名ほどが集った。

ウエルカムパーティーでは、自己紹介から始まり、ホストファミリーとの対面やレクリエーション、さがよさこい連協力によるよさこいの披露等が行われた。さよならパーティーでは、スリランカの学生による踊りやスピーチもあった。



(たくさんの人が歓迎に集まってくれました)



(よさこいの披露にみんなうっとり)



(ウエルカムパーティーで寂しさも吹き飛びました)

(集まってくれたお礼にスリランカの踊りを披露)



(最後はたくさんの方が、お別れに来てくれました)



その他プログラム



(浴衣を着て柳町を散策しよう！)



(小学生と打ち水体験)



(振り返り会)



(福岡市防災センターで地震を体験)



(福岡市防災センターで消火活動も)



(空港で最後のお別れ)



#### 協力者・団体:

佐賀大学経済学部、佐賀大学留学生、さがさこい連、ひなた村自然塾、伊万里川内野集落の皆さま、幸楽窯 徳永陶磁器(株)、佐賀県立宇宙科学館、ほほえみ館、福岡市防災センター、古賀空手道場、古賀英語道場、NPO法人夢の学校、ホストファミリーの皆さま、地球市民の会会員、スリランカ招聘実行委員会

#### 後援:

佐賀県、佐賀県国際交流協会、佐賀市、佐賀市国際交流協会

### 5、成果の公表（予定も含む）

- ・佐賀新聞社及び毎日新聞社に記事掲載（別添参照）
- ・アイテレビにて伊万里市川内野集落のプログラムの様子を放送。（8月）
- ・えびすFMの当会番組にてプログラムの様子を放送。（9月21日）
- ・スリランカ人高校生による、現地の学校での報告会開催予定。
- ・スリランカ現地にて、学校で報告新聞を作成予定。
- ・地球市民の会会報「ネットワークテラ」で成果報告予定。（10月・当会会員・関係者ら約670名へ配布）
- ・地球市民の会ホームページ上で成果報告を掲載準備中。

### 6、事業の成果

2012年・2014年に引き続き3回目の実施となり、今回も多方面からの市民参画やご協力を頂き実施することが出来た。事業の目的である「国際的な広い視野や地域を大切にする心をもつ人材を育み、友好の輪を広げること」は、下記のように広く達成できた。

- ・スリランカの高校生たちは、本プログラムを通じ佐賀で多くの方に温かく迎えてもらい、人と人との繋がりを深めることで、日本、また佐賀という地域の理解を深め、将来への視野を広げる機会となった。帰国後は、それぞれの体験を家族や友人、学校にて発信することで、国際理解の輪が広がることを期待する。
- ・体験型プログラムを通じ、両国の参加者が文化や習慣の違いを肌で感じると共に、違いを様々なコミュニケーションを通じて理解し合うことが出来ることを学んだ。
- ・佐賀側の受入を実行委員形式で実施することで、10代～20代を中心に今回9名の協力を得た。スリランカの学生との交流はもちろん、実行委員同士やプログラム協力者等地域との繋がりも作られて、佐賀のネットワークが広がった。
- ・述べ350名を超える本プログラムへの関わりを得た。スリランカ人と日本人の交流だけでなく、日本人同士の交流の場ともなった。年齢や所属を問わず多くの参加を得、新しい地域の繋がりを広げることができた。

### 7、今後の展望

本事業を2012年に実施して3回目となった今回は、これまでに協力いただいた団体や個人に多くお声をいただき、継続的な関わりに支えられながらプログラムとすることが出来た。「もう一度、スリランカの学生と交流をしたい」という佐賀の皆さんの声は、本プログラムを通じてスリランカと佐賀の繋がりを深く、濃く出来た大きな成果だと考えている。

また、スリランカでも前回の招へい者が中心となって、今回の招へい者へのオリエンテーションを実施するなど、着実に人材が育っていることを確信している。

今後も、両国の友好を深め、更なる人材育成を目指すために事業の継続と共に、佐賀からスリランカへの派遣も増やし、相互交流としていきたい。